

憲法が輝く県政へ②

関西広域連合もムダ遣いの舞台

「県行軍」のなかで、ポリネームは縮小されたとはいえず、但馬空港の赤字補填や、神戸空港や関西国際空港、それに東播磨南北道路などの高速道路、ダムなど、開発やムダがなくなつたわけでは

ありません。そのなかでも、今年度の予算で、井戸知事が特に力を入れているものに、「名神湾岸連絡線」があります。これは、名神高速道路と阪神高速湾岸線をつなぐ「キ」ほどの道路ですが、県として独自に五百万円

の調査費を組むことも、三月二十三日には、神戸市などや商工会議所連合会と連名で、国土交通省と民主党に早期整備を要望し、「神戸新聞」し、四月六日

に、「計画段階評価をすすめるための調査」を、また、井戸知事は、空

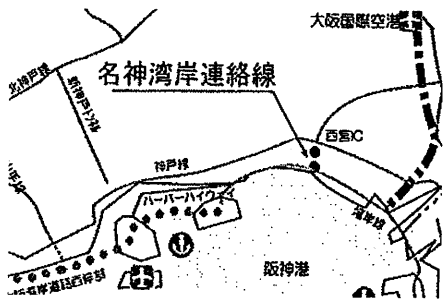
港の一体活用と同じく「大阪湾の港湾の一元管理」についても「同一管理者が同一運用したほうがよい」

（日本経済新聞）12月29日付と述べ、財界が求める公共インフラの一元管理、民間丸投げの要望に沿った方向をすすめるよう

の推進のもう一つの舞台として、大型公共事業

となつて、関西広域連合は、国土交通省などの「出先機関」を廃止し、受け皿になること、を目的に設立されたが、国の予算を、関西財界の要望にそつた大型開発に大胆に重点配分することが狙われている

この道路は、以前から関西財界が「ミッシングリンク」と呼んで、「国際競争力の強化のために必要」と主張してきたもので、その意向を強くうけた流れと言えらるでしょう。



名神湾岸連絡線の計画 (兵庫県の記者発表資料から)

とされているのが「関西広域連合」です。広域連合では、インフラ整備促進のための「広域インフラ検討会」が設置され、井戸連合長が座長となつて、「北陸新幹線、関西国際空港への高速アクセス、ミッシングリンク検討」などを行つています。そこで、関西の府県での要望をまとめて、国へ強く働きかける方向で懸念されています。児玉憲生(日本共産党兵庫県議団事務局長)